

## 株主優待について



1. 500円相当のカーボンオフセット付きQUOカード「GREENSHOES CARD」を贈呈

2. 「財団法人緑の地球防衛基金」への寄付  
(優待品相当金額の10% = 50円)

- 毎年3月31日現在の100株以上所有の株主の皆様を対象といたします。
- QUOカードにカーボンオフセットの機能を取り入れることで、カード1枚につき、CO<sub>2</sub>などの温室効果ガス約6kgの削減に貢献できます。

## ホームページのご案内

ニュースリリースやIR資料等の最新情報をご提供しています。



<http://www.rasaco.co.jp/>

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月下旬  
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日  
中間配当 毎年9月30日  
単元株式数 100株  
株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社  
郵便物送付先 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) ☎ 0120-78-2031  
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。  
上場金融商品 東京証券取引所市場第一部  
取引所 (証券コード: 3023)

### ● 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

### ● 未払配当金の支払について

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

### ● 「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。  
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。  
なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、本年より配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただきます。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

 ラサ商事株式会社



# RASASA CORPORATION REPORT

株主・投資家の皆様へ

第108期 報告書

2009.4.1 ▶▶▶ 2010.3.31

 ラサ商事株式会社

証券コード: 3023

# ラサ商事とは

当社は、特徴の異なる3事業を展開し、それぞれの事業が非常にユニークな事業ドメイン（領域）における展開となっているため、「同業他社」と言われる企業も少ない状況にあります。こうした背景もあり、当社は、3事業全てにおいて高いシェアを誇る商品を有し、お客様との強固な信頼関係を構築しております。

## 3事業に特化した経営による 更なる事業深化

特徴の異なる3事業は、それぞれ独自の強みを有しています。当社は、3事業に特化した経営を推し進めることで、それぞれの強みを活かした、弛まぬ事業深化を続けています。

## 商社の枠組みを超えた 付加価値の提供

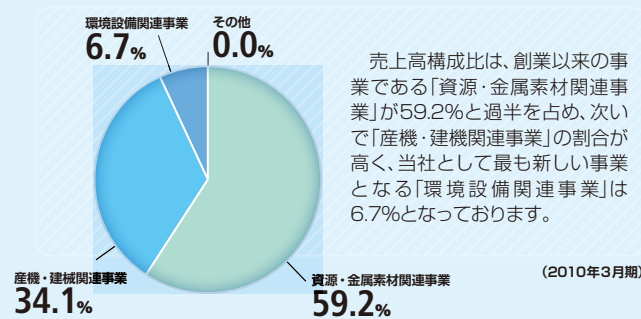
お客様の多様なニーズに応えるための最適なソリューションを追求してきた結果、当社は、「商社」の枠組みを超え、メーカーや技術サポート企業の特徴を備えた高付加価値提供企業へと進化しています。



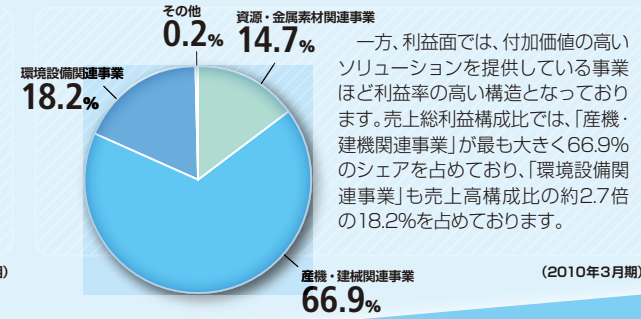
## 官民間わす幅広い業種のお 客様との取引関係

ユニークな3事業の展開、その中での商社の枠組みを超えた高付加価値の提供を通じて、当社は、官公庁や多業種にわたる民間企業との幅広い取引関係を築き上げています。

事業別売上高構成比



事業別売上総利益構成比



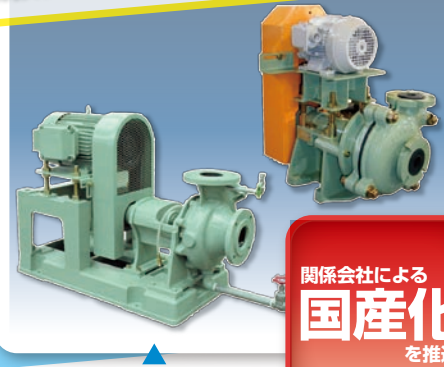
## 世界の一流技術商品と有用な価値ある資源を通して豊かな社会に貢献する



「ジルコンサンド」  
国内販売シェア  
**No.1**

資源・金属素材関連事業

同事業で取り扱っている「ジルコンサンド\*1」は、国内販売シェアNo.1 (50%超) を誇っております。また、「フェロニッケル\*2」は同事業の中で最も大きな売上を占めております。



関係会社による  
**国産化**  
を推進

産機・建機関連事業

同事業では、「スラリーポンプ\*3」と呼ばれる分野で国内トップクラスのシェアを誇っており、多くの製品を国内関係会社でライセンス生産しております。また、メンテナンスサービス、機械の設置工事など「機械メーカー機能」を果たしております。



**エンジニアリング  
部門を保有**

環境設備関連事業

同事業では、自社内にエンジニアを擁する「プラントメーカー機能」を有しております。主力商品である「水砕スラグ製造設備(ラサ・システム)」においては、設計・施工から運転サポートまで一貫して行える国内唯一の企業です。

\*1 ジルコンサンド: 天然鉱産物。ガラスやセラミックスの釉薬(上塗り薬)の原料として使用され、プラズマディスプレイ、タイル、衛生陶器などに姿を変えて私達の身近な商品となっております。  
\*2 フェロニッケル: 鉄とニッケルの合金で、ステンレス鋼の主原料。  
\*3 スラリーポンプ: 固形物が混ざった液体を送ることができるポンプ。

## 株主の皆様へ



代表取締役社長

井村周一

### [ごあいさつ]

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当期2010年3月期は、2008年秋以降の急激かつ大幅な景気後退により、極めて厳しい経営環境下でのスタートとなりました。そうした中、当社は、営業面におきましてはメンテナンス需要の掘り起こしなど、商社の枠組みを超えた高付加価値領域の業務拡大に努め、コスト面におきましては経営効率の改善に取り組みました。また、景気動向も、緩やかながらも月を追うごとに持ち直しの動きが見られました。

これら内外要因により、当期の業績は、減収減益ながらも当初予想を大幅に上回る成果を上げることができました。

経営環境は、持ち直しの動きが見られるとは言え、いまだ予断を許さない状況で推移しております。この認識の下、当社は今後も、提案型営業の更なる強化と経営効率の改善に継続して取り組み、厳しい環境を勝ち抜いてまいります。

株主の皆様には、引き続き当社の経営へのご理解とご支援をお願い申し上げます。

2010年6月

#### ラサ商事の企業理念

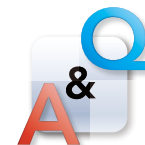
世界に通用する一流技術商品と有用な価値ある資源を国内外に販売し、豊かな社会に貢献

#### 中長期的な経営戦略

- 資源・金属素材から機械、環境設備関連までグローバルに事業を展開
- 当社独自のエンジニアリング技術の革新に努め、環境ビジネスを拡大
- 常に、顧客の立場に立ち、現場に密着した提案営業を進めるとともに満足のいくサービスを提供
- 明日に向けて、広く産業界に役立つコア・コンピタンスを創造・育成

### [トップ・インタビュー]

## 当社独自の商品・技術を活かした強みの更なる強化により、グローバル規模での事業拡大を推し進め、より強固な収益基盤の構築と企業価値の最大化を図ってまいります。

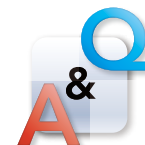


**当期は売上・利益ともに当初予想を大幅に上回りました。その要因としてメンテナンス業務の拡大が大きかったということですが。**

当社は、異なる3事業を展開する「専門商社」であり、常にお客様のニーズに合った最適なソリューションの提供を目指す「提案型営業」を基本としております。当期の業績を下支えしてくれたメンテナンス業務はその一環から生まれたものです。

主要3事業の一つである「産機・建機関連事業」では、幅広いお客様層に対して産業機械や建設機械の販売を行って

おりますが、販売後の保守・メンテナンスサービスについても、協会会社との緊密な連携を図り進めてまいりました。その結果、「産機・建機関連事業」は、今や当社の大きな柱となっております。今後も当社は、産機・建機の点検・整備・部品交換などのメンテナンスのノウハウを積み重ね、スタッフの育成・強化に努めてまいります。



**“提案型営業”の展開により、商社の枠組みを超えたソリューションの提供が拡大していますね。**

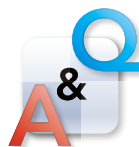
当社設立当初からの事業である「資源・金属素材関連事業」では、産業界で必要不可欠な原料となっているフェロニッケルやジルコンサンドなどの輸出入・販売を手掛ける、いわゆる「商社機能」が中心であります。一方、「産機・建機関連事業」と「環境設備関連事業」は、商社の枠組みを超えた機能を備えております。「産機・建機関連事業」では、前述の通り販売からメンテナンスまでの一貫体制を構築する「機械メーカー機能」を、また、「環境設備関連事業」では、プラントの設計・建設を行うエンジニアリングまで手掛けることができる「プラントメーカー機能」を有しております。

特定の分野に深化した「専門商社」として、商社の枠組みを超えた機能をお客様に提供することによって、当社は、総合商社では真似のできないソリューションの提供を実現さ

せ、お客様からの長く厚い信頼をいただいているものと確信しております。

厳しい経営環境の中、当社は経営効率の改善に向けた取り組みを今後も継続してまいります。全ての面でコスト削減を図っているわけではありません。たとえば、当社にとっての生命線であり、競争優位性の源となっているのは「提案型営業」です。これを継続・強化していくことが最も重要な経営の基本戦略であると認識しております。したがって、間接部門の経費を可能な限り圧縮する一方で、営業活動と人材育成に係わる費用については現在並びに将来の収益を生み出すために欠かすことのできない投資と捉え、これまで同様に必要に応じた確かな投資を行ってまいります。

## 株主の皆様へ



### 間もなく本社ビルも竣工し、次のステージの経営に向けて新拠点での新たな歩みがスタートしますね。

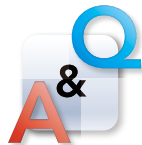
長引く景気後退局面の中で東京都心における地価が下落し、建築資材も下がっていることから自社ビルへの投資効果を見込める状況が見えてきました。そこで、自社ビルの新規取得に伴う費用と賃借料の負担を検討した結果、費用対効果の面で自社ビル取得の効果が大きいと判断し、本社ビル建設を決定しました。具体的には、2009年9月に土地を購入し、旧ビルを取り壊しのうえ本年7月より新本社ビルの建設に着手いたします。なお、竣工は来年8月頃を予定しております。

新本社ビルへの移転により、前述の経費圧縮効果に加え、今後の発展に向けた本社機能の一層の強化、従業員の士気の高揚などの面でも効果が期待されます。

今後は、新本社ビルを当社の新たな経営の拠点として、更

なる飛躍を目指し体制の整備を着実に進めていきたいと考えております。そのための基礎として、既存3事業の更なる強化・拡大を行うと同時に、新たな事業分野への進出を目指して、チャンスがあれば大胆かつ慎重な判断のもと、M&Aによる事業取得を行っていく方針です。

当社は今後も、“利益ある成長”を目指し、より強固な収益基盤の構築と企業価値の最大化に努めてまいります。



### 次期の業績の見通しをお聞かせください。

企業収益を中心に、景気は持ち直しの動きが見られるようになりました。しかしながら、欧州を中心とした海外景気の下振れ懸念や、国内においては緩やかなデフレ状況にあることなど景気を下押しするリスクが多く存在していることから、依然として予断を許さない状況が続くと考えております。

次期の業績見通しは、厳しい環境をふまえて右表のとおり予想しております。環境設備関連の水砕スラグ製造設備について、今期は大型の完工案件がないことなどが減益の主要因です。

厳しい経営環境が続きますが、当社の強みである提案型営業を引き続き実践し、顧客との結びつき強化などの積極的な営業活動に努め、予想数値は是非とも達成すべく努力する所存であります。なお配当につきましては、当期と同額の間・期末配当ともに1株当たり4円、年間8円配当を予想しております。配当性向は24.1%となる見込です。

次期の 見通し	●売上高	210億円	(-8.1%)
	●営業利益	7億円	(-20.6%)
	●経常利益	7億円	(-22.1%)
	●当期純利益	4億円	(-0.8%)

## シリーズ『商社の枠組みを超えて…』

### 第1回

### ラサ商事の「環境エンジニアリング」の力



### 製鉄所の“環境保全技術”の一翼を担う…

当社は、問題解決型の技術商社として、お客様のニーズにお応えしてきた結果、商社の枠組みを超えた機能を持つようになってきました。

その最も特徴的なものが、「エンジニアリング」機能です。当社は、製鉄所との取引を通じて、銑鉄生産時に高炉から発生する副産物である熔融スラグの最適な処理方法に大きなニーズがあることに着目。当社は、この熔融スラグを、可能な限り環境にやさしい方法で処理し、再利用を可能にする技術を開発しました。現在では、主にセメント業界で再利用されております。

1967年に世界で初めて水砕設備のクローズド・システム(\*)を開発。以来、国内外で多数の納入実績を上げています。

当社は、1967年に世界で初めて水砕スラグ製造設備のクローズド・システムを開発し、第1号プラントを納入。以来、国内はもとより、海外でも多数の実績を積み重ね、2009年までに国内・海外合わせて64件(85プラント)の納入実績を誇り、今日では製鉄会社にとって必要不可欠な設備となりました。このシステムを設計から建設、試運転まで一貫して提供できる企業は、国内では当社のみ、世界的にも数社しかありません。

\*クローズド・システム 冷却水を循環して使用するシステム

海外においても当社の技術を提供。今や業界内では、「RASA SYSTEM」として世界的認識が広がっています。

また、海外においては、製鉄所の高炉建設の国際的なリーディングカンパニーであるジーマスVAIとの間で、約30年に及ぶライセンス契約(技術供与契約)を結んでおり、同社が受注した高炉建設プロジェクトで当社の「ラサ・システム」が採用されており、最近ではインドにおける高炉建設プロジェクトでも数件の実績が上がっております。

こうした実績を積み重ねてきた結果、今や当社が提供するシステムは、「RASA SYSTEM(ラサシステム)」として、世界的な認識が広がっています。



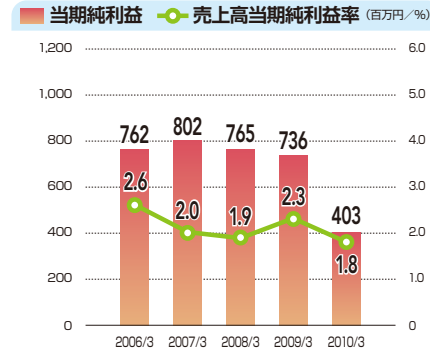
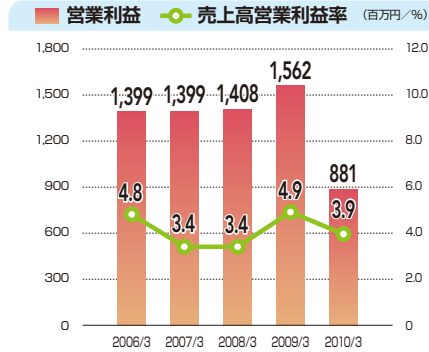
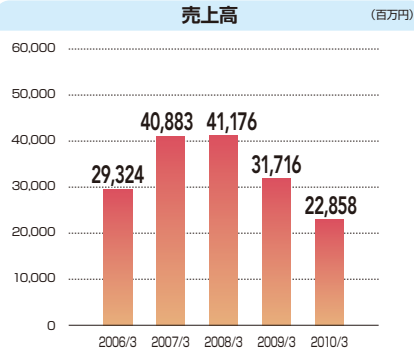
『ラサ・システム』の  
納入実績

国内 1967年～ 43件(55プラント)納入

海外 1973年～ 21件(30プラント)納入

# 2010年3月期 業績・財務のご報告

## 損益の状況 … 減収減益ながらも、当初予想を大きく上回る業績を達成いたしました。

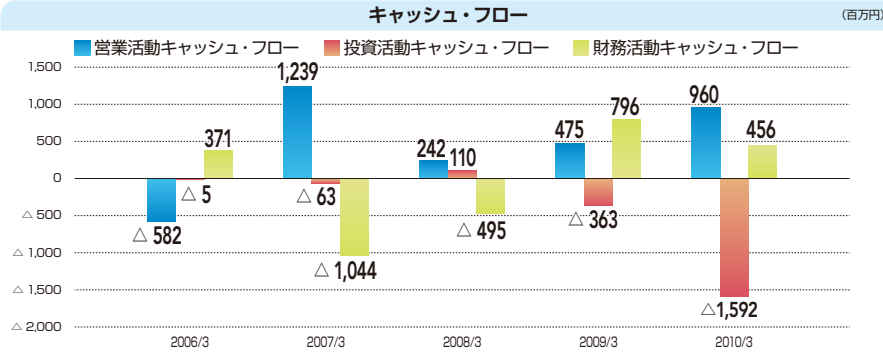


一部で景気回復の兆しが見られたものの依然として厳しい環境が続いたことから、売上高は前期比88億58百万円減少の228億58百万円となりました。しかしながら、積極的な提案型営業の推進により、当初予想比では12.0%上回る事ができました。

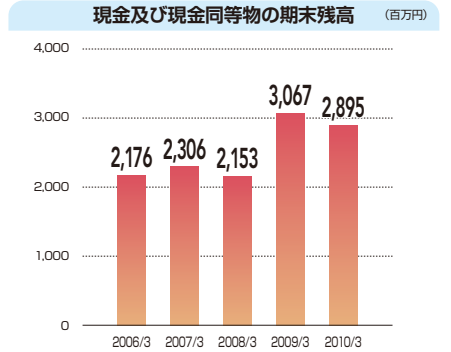
経営効率の向上に努めた結果、販売費及び一般管理費が前期比1億71百万円減少(5.5%減)しましたが、売上総利益の減少により営業利益は前期比6億80百万円減少の8億81百万円となりました。なお、当初予想比では76.4%上回っております。

会員権、商品等の評価損など特別損失88百万円を計上し、当期純利益は4億3百万円となりました。前期比では3億33百万円の減益となりました。なお、当初予想比では44.0%上回っております。

## キャッシュ・フロー … 本社機能の強化と賃借料削減に向け、本社ビル用地を取得いたしました。

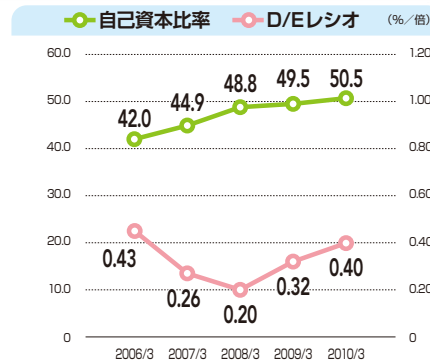
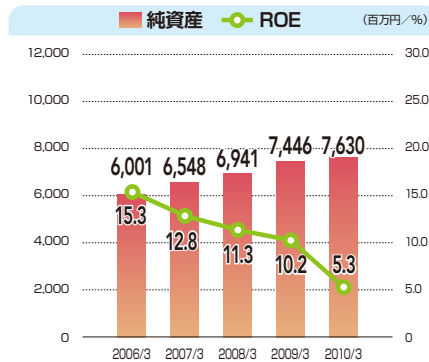
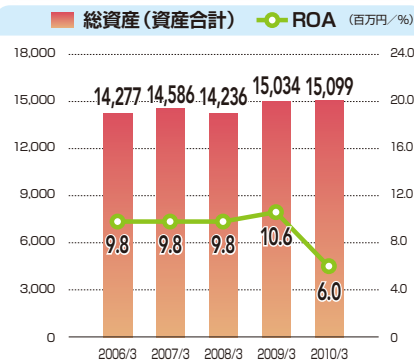


営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権減少額や税引前当期純利益など資金の増加が資金の減少を上回り、9億60百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産(本社ビル用地)の取得を行ったことなどから、15億92百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払や転換社債型新株予約権付社債の買入消却などの支出があった一方で社債発行を含む新規借入を行った結果、4億56百万円の収入となりました。



当期は、本社機能の強化と賃借料削減に向け本社ビル用地の取得関係14億42百万円という大きな支出がありました。現金及び現金同等物の期末残高は28億95百万円となり、前期末比1億71百万円の減少にとどまっております。

## 財政状態 … 利益剰余金の増加等により自己資本の充実がさらに進んでおります。

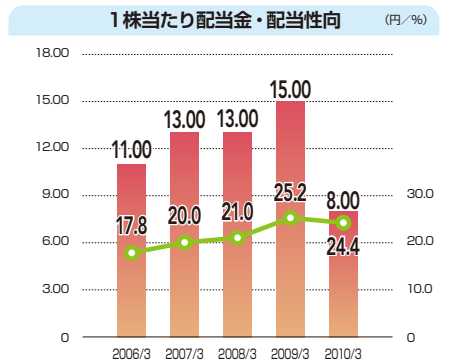
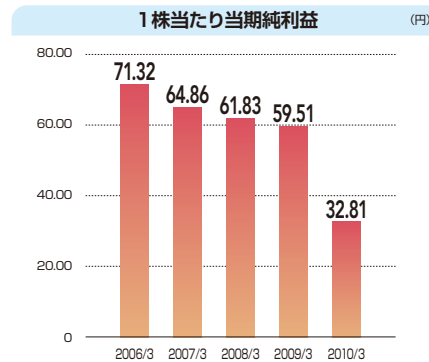
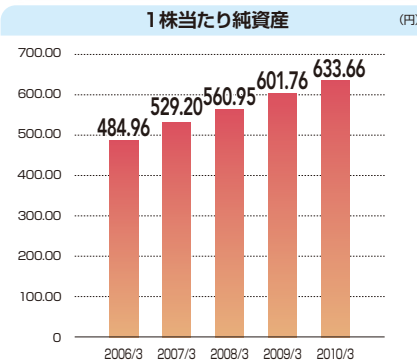


売掛金の減少等により流動資産が前期末比13億69百万円減少する一方で、不動産の取得(本社ビル用地)等により固定資産が同14億34百万円増加したことから、総資産は同64百万円増加し150億99百万円となりました。

利益剰余金の増加などから純資産は前期末比1億83百万円増加し76億30百万円となりました。また、自己資本が増加したことおよび当期純利益が減少したことからROEは同4.9ポイント低下し5.3%となりました。

利益の積み増しにより利益剰余金が前期末比2億60百万円増加したことから、自己資本比率は同1.0ポイント向上しました。一方、D/Eレシオは、有利子負債残高が同6億82百万円増加したことから同0.08ポイント上昇しました。

## 配当金など … 配当性向20%前後の安定配当を基本とした配当政策を継続しております。



会社の資産価値を見る指標の一つである「1株当たり純資産」は、前期末比31.90円増加し633.66円となりました。なお、当社株式の当期末終値(2010年3月31日)は347円であり、PBRは0.55倍という水準にあります。

投資価値を判断する指標の一つである「1株当たり当期純利益」は、前期末比26.70円減少し32.81円となりました。なお、当期末日終値ベースでPERは10.58倍という水準にあります。

当期の配当金は、1株当たり中間で4.00円、期末で4.00円、年間で8.00円にて実施させていただきました。配当性向は24.4%と目標水準「20%前後」を維持しております。なお、次期の配当金も当期と同様の内容を予定しております。

※ ROA=経常利益÷総資産×100

※ ROE=当期純利益÷自己資本×100

※ D/Eレシオ=有利子負債÷自己資本

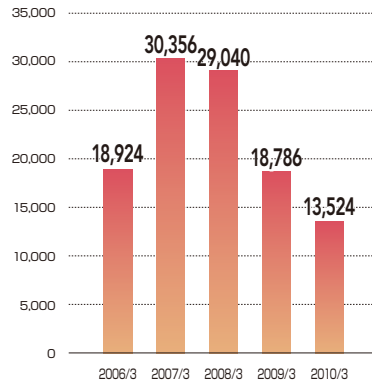
※ PBR=株価÷1株当たり純資産

※ PER=株価÷1株当たり当期純利益

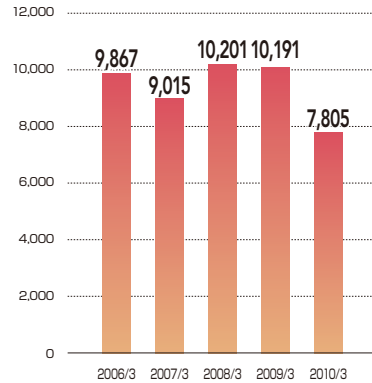
# 2010年3月期 事業別の営業成果のご報告

## 事業別の売上高

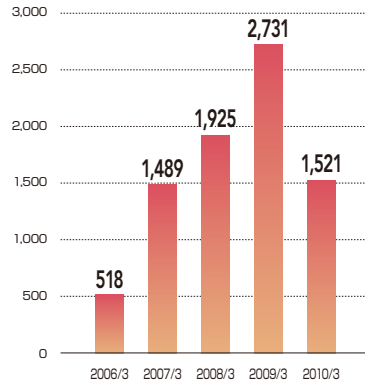
### 資源・金属素材関連事業 (百万円)



### 産機・建機関連事業 (百万円)



### 環境設備関連事業 (百万円)



2010年3月期

**135億24百万円**  
(前期比28.0%減)

主力のフェロニッケルと  
ジルコンサンドが  
共に売上減少となりました。

同事業の売上高は、売上構成比の高いフェロニッケル、およびジルコンサンドの上位2品目がともに売上減となったことから、前期比52億61百万円減少(28.0%減)の135億24百万円となりました。

内訳としては、フェロニッケルは、販売数量が前期比13.1%増となったものの価格の大幅な低下により、売上高が前期比32.8%減の81億81百万円となりました(下期の価格は回復傾向)。また、ジルコンサンドは、販売数量の減少に伴って売上高が前期比24.4%減の26億61百万円となりました。一方、近年拡販に取り組んでいる中国産原料や金属シリコンについては、それぞれ前年を上回る実績となりました。

2010年3月期

**78億05百万円**  
(前期比23.4%減)

部品・メンテナンスは健闘しましたが、  
商品の販売台数が大幅減となり、  
売上高は減少しました。

同事業の売上高は、前期比23億86百万円減少(23.4%減)の78億5百万円となりました。

産業機械においては、主力のポンプが特に新規の販売台数の落ち込みが大きく、部品・メンテナンスの需要の掘り起こしに取り組んだものの、前期実績を下回る結果となりました。商品別では、主力のワーマンポンプ、ヒドロスタルポンプは、共に本体の販売が2桁の大幅減となったものの、部品・メンテナンスがヒドロスタルポンプにおいて前期実績を上回ったことなどにより、利益に貢献しました。

建設機械においては、主力のシールド掘進機が国内向けのレンタル、海外向けの販売ともに苦戦するなど、全般に苦戦しました。

2010年3月期

**15億21百万円**  
(前期比44.3%減)

当期は大型案件の  
売上計上がなかったことから、  
売上高が大幅に減少しました。

前期は、水砕スラグ製造設備の大型2案件の売上計上がありましたが、当期は前期に比べ大型の売上案件がなかったことから、同事業の売上高は、前期比12億9百万円減少(44.3%減)の15億21百万円となりました。

なお、当期の受注高は、前期比49.8%増と大幅に増加しましたが、これは、水砕スラグ製造設備において、住友金属工業和歌山製鉄所新2高炉向け案件を受注したことにより、前期よりも増加しております。

# 会社情報・株式情報 (2010年3月31日現在)

## 会社の概要

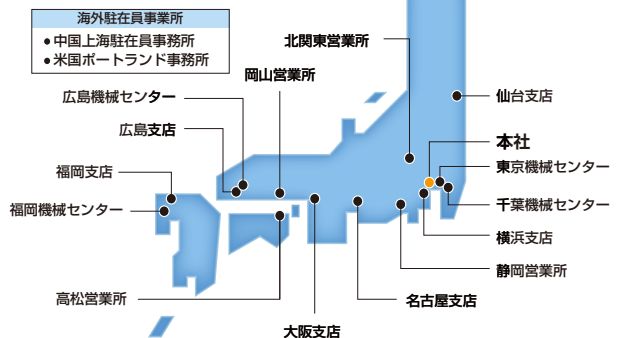
社名 ラサ商事株式会社  
 設立 1939 (昭和14)年1月10日  
 資本金 18億54百万円  
 本社 〒103-0015  
 東京都中央区日本橋箱崎町8番1号  
 ヤマトネ箱崎ビル  
 TEL (03) 3668-8231  
 FAX (03) 3669-1729  
 売上高 228億58百万円(2010年3月期)  
 従業員数 200名  
 会計監査人 監査法人大手門会計事務所  
 許可 特定建設業許可  
 (機械器具設置工事業・電気工事業・水道施設工事業)  
 古物商許可

## 取締役及び監査役 (2010年6月29日現在)

代表取締役社長 井村 周一  
 代表取締役専務 田畑 威彦  
 常務取締役 古谷 利央  
 常務取締役 伊藤 信利  
 取締役 鈴木 卓  
 取締役 澤本 滋  
 取締役 中西 俊雄  
 取締役 大岡 隆  
 監査役 栗田 治彦  
 監査役 松尾 宰  
 監査役 日原 道行

\*監査役 松尾 宰、日原 道行の両氏は社外監査役であります。  
 \*監査役 松尾 宰氏は独立役員であります。

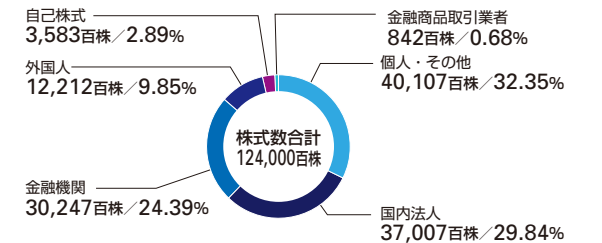
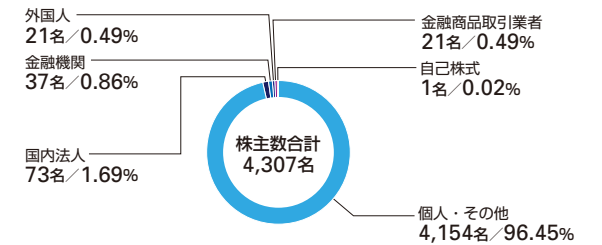
## 事業所



## 株式の状況

発行済株式の総数 12,400,000株  
 株主数 4,306名(自己株式除く)

## 所有者別株式分布状況



## 大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
大太平洋金属株式会社	1,040,000	8.38
ラサ工業株式会社	1,000,000	8.06
シティグループ・グローバル・マーケティング・インク株式会社損害保険ジャパン	720,000	5.80
アトラスコポ コンストラクション ツールズ イビー	470,000	3.79
日本生命保険相互会社	400,000	3.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	370,000	2.98
東京海上日動火災保険株式会社	367,100	2.96
株式会社みずほ銀行	360,000	2.90
大太平洋機工株式会社	260,000	2.09
	207,000	1.66

(注) 当社は自己株式を358,326株保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。